令和３年度 学校自己評価システムシート（県立けやき特別支援学校）

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につけさせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校

重点目標	1 病弱教育における自立活動の観点を押さえ、ICTを活用した授業の充実を図る。 2 子ども主体の各種活動をとおし、豊かな心・創造性を育む。 3 円滑な復学支援をはじめ、病弱教育のセンター的機能を充実させ、病弱教育の啓発に努める。

達成度		
	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（ 2月 1日 現在 ）			実施日 令和4年2月9日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	「自立活動におけるＩＣＴを活用した授業づくり」をテーマに、病弱教育における自立活動についての研究を推進する。（研究部） ＩＣＴ機器を利用しながら、教育活動において自立活動的視点を入れながら授業実践を行っているが、病弱教育における自立活動の意義と抑えるべき観点について未整理な面が見られる。（小学部） 新ネットワーク、新規導入タブレットの環境整備及び操作方法の周知。併せて、ICT機器等の管理を徹底する。（情報部） 仕事内容を明確にすると共に、確実な引継ぎ資料を作成する必要がある。（教務部）	病弱教育における自立活動の意義と押さえるべき観点について、研修等を通して整理していく。 ICT機器を効果的に活用した、授業実践を展開する。	研修等を通し自立活動についての学びを深め、11月末までの実践報告をまとめる。全体のまとめを1月までに行い、2月の研究報告会で発表する。（研究部） 研修を進めるとともに、有効にICT機器が活用されているか適宜検証していく。（小学部） 関係機関と連携を図るとともに校内研修で操作方法の周知を行う。併せて、機器の扱い方や貸出方法の周知や工夫を行う。（情報部） 仕事の進め方を明文化し、引継ぎ資料とすると共に、確実に仕事が進められるようにする。（教務部）	2月の研究報告会で、各自の実践及び全体のまとめを発表できるよう、計画に沿って研究を進める。（研究部） 学部研究において、病弱教育における自立活動の意義と押さえるべき観点について、整理することができたか。各教員のICT機器を有効に活用できたか。（小学部） 様々な学習活動の中で新規導入機器の安定した運用ができたか。また、管理方法の工夫により破損や紛失等の件数が減ったか。（情報部） 年度末までに仕事内容を明文化して引継ぎ資料を作成することができたか。（教務部）	当初の予定通りに研究を進めることができた。2月の研究報告会に向けて準備を進めていく。 病弱教育における自立活動の意義と押さえるべき観点について整理を行い、各グループごとに研究授業を行った。児童の実態に応じて、適切なICT機器を活用するなどの工夫を行うことで、授業の充実を図り、成果を各グループでまとめることができた。 新ネットワーク及び新規導入タブレットを概ね安定して運用することができた。ICT機器の扱い方や貸出方法の周知及び工夫により紛失件数は減ったが、破損件数に関しては課題が残る。 教務部の分担はなされ、引継資料も完成しつつある。個人ファイルの一部は改善が必要である。書類の不備は少ないが一層の対策を行いたい。	A A	研究の見通しを立て、早期に研究を開始したい。研究方法を工夫し、全員が研究に関わるようにする。 病弱教育における自立活動の意義と押さえるべき観点についての整理をもとに、授業実践を深めていく。 今年度の学部研究の反省を生かし、さらに深めていくために、実践を継続する。 機器活用に向けて研修を行い、教職員全体のICTスキルの向上を図る。併せて、機器及び付属品の適正な管理ができるよう管理方法を工夫し、周知する必要がある。 引継資料の運用及び改善予定の各書式の切替を進める。新転任を中心に指導要録作成等の留意点を伝える取組を行う。来年度の仕事を進める中で引継資料の効果を判断する。指導要録等の留意点等の伝授は、研修等で対応する。	自立活動の視点を踏まえ、ICTを効果的に活用した授業づくりに成果が見られ、良かったと思う。治療や病状により、生活や活動が制限された中でICTを活用することで、より充実した学びが期待できると思う。自立活動におけるICT活用の課題については引き続きご検討いただきたいと思うが、今後は、他校に先立ち、ICTでは補えない、対面学習の効果についてもご検討いただきたい。 先生の人数も多く、一人一人に合った学習をしていると思う。少人数の中でも、さまざまな学習をしていると思う。遊びたい盛りの子供たちにとって入院生活は大変だが、勉強以外にも行事を開いていただき子供たちの好奇心や達成感を満たす取り組みをいただけていることに感謝の気持ちを感じた。 校外行事を双方向通信で実施できたことはよかったと思う。学習発表会は、どれも楽しそうで学びの広がりを感じた。ICT機器の管理や扱い方については、さらに力を入れてほしい。
2	児童生徒の主体的な取り組みの難しさに対し、全員が主体性をもち、短期間でも充実感を得られる活動の設定と評価が課題である。（指導部） コロナ禍の限られた条件下でも、新たなスタイルの学校・学部行事を実施するとともに、生徒の姿を保護者に発信する機会を多く持つ必要がある。（中学部） 児童生徒が主体的に活動し、安心・安全で学校生活を送り、自己肯定感・自立心を養うためには、健康教育推進活動の工夫と継続が必要である。（保環部）	児童生徒主体の学校行事・委員会活動等をとおし、達成感・充実感を得ることで、自己肯定感・自立心の育成を図る。	ICTを活用した情報の共有など、児童生徒が企画・運営に主体的に取り組めるよう工夫する。随時振り返りを実施し、児童生徒の充実感が得られるよう計画的に指導する。（指導部） 行事の実施方法を見直し、行事のめあてが達成できるよう工夫して実施するとともに、ICT機器を活用し生徒が主体的に行事に取り組んでいる姿を保護者に発信する。（中学部） 学習に有効な資料や教材を作成し、学部への情報提供や関連教科等とも連携を図る。児童生徒保健委員会活動を充実させ、教員間では危険予知トレーニングを実施する。（保環部）	活動後に実施する振り返りにおいて、各児童生徒が全体の8割以上で充実感を得ることができたか。主体性や次の活動意欲等の自己評価を引き出すことができたか。（指導部） 効果的な行事を実施することで生徒の自己肯定感が高まったか。保護者への積極的な発信ができたか。（生徒振り返りシートや保護者アンケートから評価）（中学部） 分掌内研修、資料・教材作成、学部や関連教科・領域間等との連携、情報提供、児童生徒保健委員会活動、危険予知トレーニング研修会を通して、健康教育推進の働きかけができたか。（保環部）	ICTの活用や役割の自覚化により、児童生徒中心の活動を促すことができた。また、各児童生徒が概ね活動全体の8割以上で充実感や達成感を得ることができた。 信頼関係を基盤に生徒の意見を吸い上げ、記録映像を活用し、生徒の達成感・自己肯定感を高めた。行事のオンライン発信で保護者から高評価を得た。 健康教育推進のための活動、働きかけができた。（関連部署への連絡、教材資料作成、保健委員会活動の活性化、教職員の危険予知力の向上等）	A	ICT活用による、さらなる話し合い可t道の充実等、効果的な活用法を探る。活動を児童生徒主体でできるようマニュアル作成等検討していく。 保護者に発信した後の意見の収集方法および活用について、より効果的な方法等探っていきたい。 学部や関連教科・領域との関連等、計画立案等の見直し、更なる健康教育活動の充実を図っていく。引き続き、関連部署との連携・病院、関係者等との連携・信頼関係の維持していく必要がある。	校外行事を双方向通信で実施できたことはよかったと思う。学習発表会は、どれも楽しそうで学びの広がりを感じた。 行事及び授業もICTを活用しながら目標を達成できたと思う。保護者アンケートの結果からも、保護者は子どもの成長を、特に他の生徒との触れ合いを通して感じており、学校という社会生活の中での成長も促す事が出来たと評価できると思う。子供たちのストレス軽減の他、自分で選んで活動を行うという主体性を育める取り組みも行い、学びの場だけではなく心の充実の場にもなっていると感じた。 特別支援学校としてのセンター的機能の役割も増え、先生方の多忙が心配である。先生方の働き方改革（必要であれば）や、十分な研修なども充実できると良いと感じた。
3	市町村教育委員会への病弱教育の理解と私立高校への高校生支援の理解と協力が得られるよう啓発に努める。（相支部） 前籍校への情報提供の不足、保護者の復学後の不安を解消する。（相支部）	児童生徒の情報の共有化を図り、子どもを支える保護者、病院、前籍校、関係機関との連携を深め、円滑な復学を目指す。 公開講座、研究発表、高校生支援等を積極的に推進し、病弱教育の理解を広げる。	教育委員会のメーリングリストや病気ごとの配慮についての動画の作成、私学関係者への理解啓発や協力を要請する。（相支部） 前籍校への詳細な情報提供、保護者へ復学後のサポートの情報提供を行う。（相支部）	メーリングリストを作成し、動画を配信することができたか。私学関係者に理解啓発協力を要請することができたか。（相支部） 前籍校への資料の工夫を行い、チェックシートを送ることができたか。保護者に情報提供できたか。（相支部）	メーリングリストを作成し公開講座の連絡等一斉送信することができた。動画制作をはじめることができた。 前籍校へ送る資料を工夫し、保護者への情報提供もできた。	A A	病気ごとの配慮について説明が必要なため、病弱教育の理解のための動画制作を進めていきたい。多くの病気療養中の子どもが学習支援が受けられるよう関係者への周知及び支援を引き続き行っていきたい。 入院期間の短期化、配慮を要する復学が増えた。病院との連携を更に密にし、多様化する復学支援に対応できるよう研修を実施する。	高校生学習支援事業については、（高校は）義務教育ではないが、大学へ進学するための重要な期間であるので、高校生でも入院時に学習支援を受けられる環境の整備については課題は多いと思うが進めていただけると幸いに思う。退院後も悩みなどを聞いていただき、適切にアドバイスしてくださり、ありがたい。復学支援は主にリモートで行われたのかと思うが、時間や場所の制約が軽減されるWeb会議の効果と、その課題については今後も検討していただきたい。